



JQA-2631 (本社工場)
JQA-EM3548 (本社工場)

水系 ハイエポンⅢ

MIZUKEI HIGH-EPON Ⅲ
水系 2液型エポキシ樹脂さび止め塗料



各種カラー鋼板
無塗装金属板



水系 ハイエポンⅢ

金属素材の塗り替え改修、 建物外部の鉄部全般に塗装可能

水系ハイエポンⅢは水系塗料で環境配慮型製品でありながら、防食性、付着性を高めた水系2液型エポキシ樹脂さび止め塗料です。建築物の屋根基材、および周辺金属部等の塗り替えに最適です。

溶剤、弱溶剤タイプよりも臭気が少なく、消防法上の非危険物として取扱い可能となり、安全性が高い塗料です。さらに水系の上塗り塗料と組み合わせることでオール水系での防錆仕様が可能となります。

01 // 高い防錆機能

水系塗料でありながら、高い防錆性能を発揮します

02 // 簡単希釈

水道水で希釈可能で、臭気が少なく環境に配慮した水系塗料です

03 // 抜群の安全性

鉛・クロムフリーで、安全性も抜群 防食性にも優れています

04 // 優れた付着性

各種金属素材・各種旧塗膜に対しての付着性に優れ 幅広い上塗り選択性を持ちます

適合上塗り材

<屋根用塗料>

ナノルーフシリーズ、ルーフピアニ、水系シリコン、水系ナノシリコン、水系カスタムシリコンⅡ、水系パワーフロン[※]、パワーシリコンマイルドⅡ、パワーフロンマイルド、バイオマス R-Si、ルーフマイルド SiR、ルーフマイルド U、スーパーギルソ

<外壁用塗料>

ナノウォールシリーズ、ナノコンポジット F、ナノコンポジット W、ナノシリコン W、ユーロテックス、パワーシリコン MX、マイルド U、マイルド Si

[※]ナノルーフ 20、水系パワーフロンは寒冷地では塗装できません。詳細につきましては営業担当者へお問い合わせください。
(上塗り塗料については、別途製品カタログをご参照ください。)

こんな場所に塗装可能！

各種カラー鋼板・無塗装金属板

適合下地

各種金属素材との適合性

金属素材		塗装可否
カラー鋼板（一般ポリエステル系）		○※1
塩化ビニル鋼板		×
フッ素鋼板		×
表面未加工	鉄	○
	溶融亜鉛メッキ鋼板（トタン）	○
	アルミ合金めっき鋼板（ガルバリウム鋼板）	○
	ステンレス鋼板(SUS304,SUS430)	○※2
	銅板(C1100P)	○※3
アルミニウム板(A1050Pなど)		×

- ※1 基材が未劣化の場合、必ず目粗しをしてから塗装してください。
 ※2 ステンレス鋼板は種類が多いため、付着に関しては当社営業担当者にお問い合わせください。
 ※3 緑青が発生している場合には、必ず酸処理をしてから塗装してください。

既存塗膜との適合性

既存塗膜（艶がなく樹脂が劣化している状態）		塗装可否
合成樹脂調合ペイント	—	△※4
フタル酸樹脂塗料	—	△※4
非水分散1液型シリコン	NADポリマSi	○
2液型ポリウレタン	ルーフマイルドU	○
2液型シリコン	ルーフマイルドSiR	○
2液型バイオマスシリコン	バイオマスR-Si	○
2液型シリコン	パワーシリコンマイルドII	○
2液型フッ素	パワーフロンマイルド	○
2液型シリコン	PSマイルドSコート	○

- ※4 既存塗膜と下地の密着が悪い場合がありますので、状態をご確認ください。また、小面積でテスト塗装を行い、付着をご確認ください。
 ※ 上記の適合性は旧塗膜が経年劣化した場合になります。あまり劣化していない(水を弾くような)場合には、水が弾かなくなるまで目粗しを行い、その後小面積で水系ハイエボンⅢをテスト塗装し、付着をご確認ください。

塗装仕様

■屋根用仕様の場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m ² /回)	塗面積 (m ² /セット)	可使時間 (23℃)	塗装間隔（23℃）		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエボンⅢ 主剤9kg 硬化剤6kg	0~3% (希釈水)	ハケ ローラー	1	0.14~0.16	94~107	4h以内	—	6h以上 7日以内	—
上塗り	ルーフピアニ A液 15kg B液0.3kg	5~15% (希釈水)	ハケ ローラー	2	0.12~0.15	51~64	24h以内	4h以上 10日以内	—	16h以上

※塗付量に希釈水は含まれていません。塗付量は条件により増減します。

■外壁用仕様の場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗回数 (回)	塗付量 (kg/m ² /回)	塗面積 (m ² /セット)	可使時間 (23℃)	塗装間隔（23℃）		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエボンⅢ 主剤9kg 硬化剤6kg	0~3% (希釈水)	ハケ ローラー	1	0.14~0.16	94~107	4h以内	—	6h以上 7日以内	—
上塗り	ナノコンポジットW 15kg	4~8% (希釈水)	ハケ ローラー	2	0.12~0.18	42~63	—	2h以上	—	24h以上

※塗付量に希釈水は含まれていません。塗付量は条件により増減します。

可使時間

	温度				
	5℃	10℃	20℃	30℃	35℃
可使時間	使用不可	4h	4h	2h	1.5h
塗装間隔		16h以上 7日以内	6h以上 7日以内	4h以上 4日以内	3h以上 4日以内

標準色

色名	日塗工色見本
グレー	75-50C程度
白	N-90程度

荷姿

水系ハイエポンⅢ 15kgセット(主剤9kg 硬化剤6kg)
5kgセット(主剤3kg 硬化剤2kg)

注意事項

○下塗り：水系ハイエポンⅢ

- 2液型塗料のため、使用後のハケなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- 可使用時間を過ぎても塗料粘度の上昇がほとんどないため使用可否を判断できません。可使用時間を過ぎた塗料は使用を避けてください。可使用時間を過ぎた塗料を使用すると塗膜性能不良となります。

【仕様全般】

- 被塗物の表面温度が5℃以下の場合は塗装を避けてください。
- 水系塗料に使用するハケ・ローラーは、水系専用のものをご使用ください。
- 降雨・降雪・強風が予想される時や高湿度(80%以上)・低気温(5℃以下)の場合は施工を避けてください。高湿度・低気温で塗装した場合、未乾燥状態で夜露などにあたると艶引けを起こすおそれがあります。
- 塗装面のゴミやホコリ等は取り除いてください。
- シーリング面への塗装は、シーリング材の種類・使用条件により塗膜の汚染・剥離・収縮割れ等の不具合を起こすことがあるため、基本的には行わないでください。やむを得ず行う場合は、塗り重ね適合性を確認してから必ずノンブリードタイプをご使用ください。
- エアレス塗装の場合、塗料の飛散による汚染の可能性がありますので、必ず養生してください。
- 金属屋根のはげ部分など、構造上膜厚がつきにくい部分は、さびが生じやすいため、拾い塗りなどでしっかりと塗装してください。
- 塗装中に塗料を開放して放置しますと上乾きすることがありますのでご注意ください。また上乾きした塗膜は塗料に混ぜ込まないでください。
- 塗装直後、降雨や結露等で白化した場合は、目直しを行って再度塗装してください。
- 塗装による臭気で、近隣に迷惑を掛けることがありますので、十分に配慮をお願いします。
- 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 化学物質過敏症の人は、塗料に含有している化学物質(VOC等)に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。

【塗料に関する注意】

- 2液型塗料の主剤と硬化剤の混合は必ず規定の割合で混合し、マーゼル等で充分攪拌してください。
- ご使用前には充分攪拌してください。
- 2液型塗料は、塗料ごとの可使用時間内に塗装してください。また、気温が高い場合極端に可使用時間が短くなりますので、手際よく塗装してください。
- 2液型塗料は、硬化が不十分な場合、シンナーで再溶解場合があります。
- 排水溝には捨てないでください。
- 2液型塗料の主剤と硬化剤は別々に密栓し、冷暗所に保管してください。また、開栓後は早目に使い切ってください。
- 小分けする場合は、充分攪拌して均一の状態にしてから行ってください。色浮き・色違いや硬化不良等の原因となります。
- 水系塗料の保管は直射日光を避け、冬季には凍結させないよう3℃以上の室内で行ってください。
- 屋内使用の場合、施工時および施工終了後において、充分な換気を行ってください。
- 材料の保管・取り扱いには消防法・労働安全衛生法に基づき充分な管理をお願いします。

LINE公式
アカウント開設！
ID：@521kgmun

水谷HPは
こちら↓



本社	☎ 532-0006	大阪市淀川区西三国4-3-90	☎ (06) 6391-3151 FAX (06) 6393-1101
大阪支店	☎ 532-0006	大阪市淀川区西三国4-3-90	☎ (06) 6391-3401 FAX (06) 6391-3456
西日本開発部	☎ 532-0006	大阪市淀川区西三国4-3-90	☎ (06) 6391-3401 FAX (06) 6391-3456
東京支店	☎ 101-0032	東京都千代田区岩本町1-4-5 NS岩本町ビル	☎ (03) 3865-8177 FAX (03) 3865-8760
東日本開発部	☎ 101-0032	東京都千代田区岩本町1-4-5 NS岩本町ビル	☎ (03) 3865-8177 FAX (03) 3865-8760
北関東支店	☎ 348-0038	埼玉県羽生市小松台2-705-22	☎ (048) 563-0355 FAX (048) 563-5124
中部支店	☎ 486-0815	愛知県春日井市十三塚町3-6	☎ (0568) 85-3551 FAX (0568) 85-3556
広島支店	☎ 734-0022	広島市南区東雲1-13-16	☎ (082) 284-6556 FAX (082) 283-0017
福岡支店	☎ 811-2304	福岡県糟屋郡粕屋町仲原2628-1	☎ (092) 611-5731 FAX (092) 621-2301
仙台営業所	☎ 984-0042	仙台市若林区大和町1-22-36	☎ (022) 782-6770 FAX (022) 232-6871
札幌営業所	☎ 003-0006	札幌市白石区東札幌6条5-2-6	☎ (011) 824-5711 FAX (011) 824-6464
工場		本社・埼玉・中部・広島・福岡	

特約店

カタログ掲載の内容は予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。